



だんらん

社会福祉法人五葉会

第1号

2024年5月発行





緑水苑指扇 施設長 **坂井 紳二**

緑水苑指扇にて施設長を務める坂井紳二さんは、さまざまな業界に身を置いたのち、1999年7月、まったくの未経験で社会福祉法人五葉会の一員となりました。常に笑顔絶やさず、穏やかな人柄で知られていると同時に、人一倍打たれ強い人物でもあり、戸山文洋理事長からは「埼玉の武蔵野うどんのように、柔らかいのにコシと粘りがある」という評価を受けています。今回は、坂井さんの心に燃える仕事への情熱に迫ります。

五葉会に入職するまでは、どのような仕事に就いていたのでしょうか。活躍の場を五葉会へと移したきっかけについてもお聞かせください。

「手に職をつけたい」という思いで給湯器の修理など、さまざまな仕事を経験しました。そのなか

で、「好きなことを仕事にしたい」という気持ちが芽生え、頭に浮かんだのが、病院で清掃のアルバイトをしていたときのこと。担当していた高齢者病棟で、話しかけてくれた認知症の患者様と関わるようになり、日々の何気ない会話がとても楽しかったのです。そうして高齢者と関わる仕事に興味を持つようになり、ホームヘルパー2級（現在の介護職員初任者研修）の受講を決意。その最中に五葉会の求人広告を目にして面接を受け、縁あってこの法人の一員となりました。

入職当初、特にご苦労されたのはどのような点ですか。

右も左もわからず、文字通りすべてが手探りの状態でした。上司から厳しい叱責を受けることもしばしば。けれどもご利用者様との会話がとても

Check point!

オリジナルの取り組み

「3S」で皆がハッピーになれる施設を目指す

1年ほど前から、整理・整頓・清潔の「3S活動」に力を入れています。目的は、ご利用者様にとっても職員にとっても安全で快適な環境を作り、効率的に業務を回すこと。特に、職員が一番よく行き来するステーションまわりや備品の保管スペースは、担当者を決めて週1回の清掃や整理を行ってきました。業者さんがシーツを持ってきてくれたときに、どこにどのように置かなど、細かくルール化。今では、担当者以外でも気づいた人が片付ける習慣が浸透し、常にきれいな状態をキープしています。3S定着のために私が心がけたのは、結果としてどのようなメリットが生まれるのか、全員に共有することです。今後は、消毒なども見直し、感染症対策に力を入れたいと考えています。



注力しているポイント

相談員やケアマネジャーとの連携が、ご利用者様を守り、ご家族様からの信頼にも繋がる

ご利用者様の変化に気づいたら、些細なことでもリーダーへ報告することを徹底しています。例えば、「下肢筋力の低下が見られ、これまでのように職員の介助付きでトイレに行くことが難しくなり、立てないときはベッド上でパッド交換しています」など。そうすることで、ご家族様からの信頼を得ることができ、感謝のお言葉もよくいただけるようになりました。



ワンポイント工夫!

ご利用者様の整容もぬかりなく!

爪切り、お顔拭き、整髪も大切なケアです。3日に1回くらいは皆さんの爪が伸びていないかチェックして切り、ご面会前や起床時には髪やお顔なども整えます。

今後の目標

最高のケアができる施設になるために! スキルの底上げと事前の対策が不可欠

3S活動を継続し、職員もご利用者様も安心して過ごせる施設にしたいです。そのために、まずは研修を通して一人ひとりのスキルを上げる、危険に備えて事前に対策を練るなど、現場のレベルアップが不可欠です。



私たちはこんな仕事をしています！

Vol.01

Zoom in!!

見沼緑水苑

紹介

さまざまな施設やユニットを紹介するこの企画。
記念すべき第1号は、見沼緑水苑！
従来型ならではの職員の一体感や連携、
スムーズな施設運営のためのベースづくりなど
について、介護主任を務める松下さんにお話を伺いました。
他の施設でも取り入れられる
好事例が満載です。



見沼緑水苑 介護主任
まつした はやと
松下 隼人さん

施設概要

約50名のご利用者様を約30名の職員でケアする従来型施設

ご利用者様ごとに個室でケアする「ユニット型」ではなく、**4人部屋の多床室でケアを行う「従来型」の施設**です。
3階・4階が居住スペースで、4階では比較的自立度の高い方が生活しています。50名ほどのご利用者様のなかには、私たちが子どもや孫のように可愛がってくださる方も！
約30名の職員全員で、ローテーションしながら皆さんのお世話にあたっています。
職員の年齢層としては40歳前後が一番多く、経験豊富な5名のリーダーが現場をまとめています。



見沼緑水苑ならではの強み

全員が交流できる業態のおかげで、コミュニケーションが活発！

ユニット型施設と異なり、全職員が全ご利用者様と関わるため、**現場の共有範囲が広い**のが特徴です。その分、**職員同士の交流機会が多く、お互いのことをよく理解**しています。ときには、アラフォー世代から20代へ、プライベートなアドバイスを送る光景も。仕事とメリハリをつけて、全体的に楽しい雰囲気業務に取り組んでいます。新人にとっては、**頼れるベテランの仕事ぶりを見ながら安心して成長できる職場環境**になっているのではないのでしょうか。管理者の立場としては、今以上にコミュニケーションを図れる場を設け、より良い現場運営に活かしたいと思っています。
ご利用者様に向けては、直近では「ひな祭り」を楽しんでいただきました。コロナ禍も、音楽を流したりちょっと良いおやつをお出ししたりして、季節感やイベントの雰囲気が出るよう工夫しました。



▲ご利用者様と

楽しかったので、厳しい指導も乗り越えることができました。休日に同僚たちと遊びに行ったことも良い気分転換になったと思います。

仕事におけるやりがいについて教えてください。

ご利用者様とのコミュニケーションが何よりの喜びであり、やりがいでもあります。20代の頃、とあるご利用者様が私を「紳ちゃん」と呼んで慕ってくれたことは、今でも忘れられない思い出の一つ。求められる喜びを、肌で知った出来事です。認知症のご利用者様とのコミュニケーションに悩んだ日もありましたが、ふとした拍子にその方が微笑みを見せてくれると、それまでの苦勞が一気に吹き飛んでいくような心地がした記憶もあります。

経験を重ねてマネジメントに携わるようになると、ご家族様と関わる機会も増えていきました。対応の難しいご要望を受けるケースもありますが、まずはご家族様の話にしっかり耳を傾けるよう徹底しています。ご要望にはできる限りお応えしたいと考えていますが、お断りせざるを得ない際には「ご利用者様にとっては何が最適か」を踏まえてご説明するよう心がけています。そうした取り組みの結果、ご理解いただける場合が多いた

め、そのときは安心しますし、「これまでの経験が活かせた」と感じる瞬間でもあります。

最後に、今後の目標をお願いします。

「ご利用者様が安心して暮らせる場所」として施設運営を続けていきたいと考えています。また、職員たちにとって「やりがいのある職場」を作り上げていければ幸いです。相談や改善案、ときには不満でも構いませんので、気軽に声をかけてくれれば嬉しく思います。

介護業界は、慢性的な人手不足に苦しんでいます。定着率を上げるとともに、研修などを活用して学びの機会を増やし、一人ひとりが生き生きと成長しながら働ける職場環境を整えることができれば、それに勝る喜びはありません。

「3人の子どもたちがバドミントンを習っており、休日は練習を見に行ったり、試合の応援に行ったりしている」と話してくれた坂井さん。ご利用者様に対して、ともに働く仲間たちに対して、温かな心で向き合う坂井さんは、これからも力強く五葉会の未来を切り拓いていくでしょう。



▲お子さんたち



坂井さんってこんな人!

「柔らかいのにコシと粘りがある。我が町、埼玉の武蔵野うどんのような人物」と、戸山理事長からご推薦をいただいた坂井さん。柔らかい笑顔に、軽い語り口調で上司からも部下からも慕われ、現場の雰囲気を和ませているそうです。そんな坂井さんをよく知るお二人から、坂井さんの魅力溢れるエピソードを伺いました。

坂井さんは 緑水苑与野で一緒に働いた部下です!

2023年春まで、私が施設長、坂井さんが副施設長として、緑水苑与野で2年間一緒に仕事をしていました。坂井さんは与野開設当初から長年働いていたこともあり、与野の全てのことをわかっており、さまざまな場面で頼りにしていました。

坂井さんを一言で表すと……

『どのようなピンチも軽々と乗り 越える、肝が据わっている方』

新型コロナウイルスが蔓延し始めた際、与野でもクラスターが発生。職員不足でピンチが訪れたときも、坂井さんは現場のヘルプに入るなど、慌てず現場の対応を黙々とこなしていました。大変心強く、頼れる存在でした。

坂井さんは 緑水苑与野で一緒に働いた上司です!

緑水苑指扇配属前まで、私が所属する緑水苑与野で副施設長を務められており、何気ない会話で職場の雰囲気を常に和ませてくれていました。業務で問題に直面したとき、真摯に相談に乗っていただき、何度も助けてくださりました。とてもお世話になった上司の一人です。

坂井さんを一言で表すと……

『緑水苑のオールラウンダー』

自分の業務が忙しいなかでも、介護現場の人手が足りないときは現場に入ったり、相談員不在のときには相談業務の対応をしたり。ありとあらゆる部署のヘルプやフォローができる方です。また、紙粘土でケーキをつくって、職員の誕生日をお祝いしていることがありました。自分には思いつかない発想で、人との距離を縮めるのがとても上手な方だと強く印象に残っています。

緑水苑 与野
副本部長

せんば ひろまさ
銭場 弘昌さん



坂井さんとの思い出

遡ること約20年前。見沼緑水苑に私が介護職で入社し、坂井さんと夜勤を一緒にする機会がありました。その頃、夜勤担当者がそれぞれ休憩時に夜食を持ち寄る習慣がありました。ある日、夜勤が3人体制だった日に、3人ともそれぞれの分のカップヌードルを用意。1人3個のカップヌードルになり、一度に3個を食べて、朝の食事介助時に胃がもたれたことは今でも忘れられません。

緑水苑 与野

えばら ゆかり
荻原 由香里さん



坂井さんとの思い出

相談業務を日々こなすだけで精一杯のときに、できていることを褒めてくれたことが印象に残っています。上司の相談員が辞めてしまい、自分自身がご家族様の前に立つことが多くなっていくなか、うまく言葉が出ず、上手に説明ができなと感じていました。そのようななか、坂井さんから、「ご家族様との関わりが増え、以前より言葉が出ているよ」と成長しているところを伝えてもらいました。人への気遣いを忘れずに行動できるところに憧れます。

社内報「だんらん」 創刊のお知らせ

皆様のご意見をお聞かせください!
所要時間:10~20秒



このたび、五葉会の社内報プロジェクトがスタート!
職員の皆さんをつなぎ、話に花が咲ききっかけとなる社内報を目指します。
どうぞよろしくお願いいたします!



毎月
8日に
発行します!

社内報 発行の目的

- 1 拠点の垣根を越えたコミュニケーションの活性化
- 2 職員以外の方へ五葉会の情報を発信

企画内容

巻頭インタビュー

毎月2ページにわたり、活躍する職員にインタビューを実施!記念すべき創刊号は、緑水苑指扇の施設長、坂井紳二さんに巻頭を飾っていただきました!

施設・ユニット紹介、ノウハウ共有など

現場の仕事ぶりや業務プチテクニックの共有などの仕事向け企画から、皆さんの人柄を知ることができるエンタメ企画まで、内容盛りだくさんでお届けします!気になるあの人の意外な一面を知ることができるかも……?

社内報を開始した背景

ある日、産休中だった職員が、産まれたばかりの赤ちゃんを連れて理事長室まで来てくれました。彼女からは隠しきれないほどの幸せなオーラが溢れており、しばらくの間、幸せな空気が充満していました。「僕一人の部屋に……なんてもったいない」と感じたことが、社内報の発行

を考え始めたきっかけです。大切な「仕事の報連相」のベースには、このような人間同士のやりとりがある気がします。嬉しいことはもちろん、時には辛いことだって打ち明けて、お互いを思いやれたら、五葉会はもっと強くなれる。もっと優しくなれる。そう思うのです。

今後挑戦してみたい企画

我が家のペット自慢、趣味・特技披露、こだわりの逸品、おすすめの映画など、仕事を離れてちょっと個人的なことにも触れられたら、共通の趣味を持つ意外な職員同士のコミュニティが生まれるかもしれません。さらにその仲間たちがレクリエーションなんかを企画したら、

ご利用者様のケアに楽しく還元できます。例えば、記事をきっかけにお菓子作り好きが集まっておやつレクをしたり、元吹奏楽部が集まって演奏会を開いたり…。想像が膨らみます!

職員の方へ

「施設とは大きな家族である」。これは大切な法人理念です。気がついたら家族がリビングに集まっていて、取り留めもなくおしゃべりをしているように、「大きな家族」にも団らんの場を。それが、この度創刊する社内報「だんらん」です。寝転がったままでも良いような世間話から、お互い正座になるような相談ごとまで、家族のリビングには色々な話の花が咲きます。「だんらん」にはどんな花が咲くでしょう。法人のなかを見渡せば、種はあちこちに散らばっています。皆さんで水をやり、たくさん芽吹かせましょう。お日様のような優しい気持ちで目を向けていると、よりかわいらしく、元気な花が咲きそうです。

とやま ふみひろ
戸山 文洋
理事長

